

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第32週の発生動向

トピックス

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

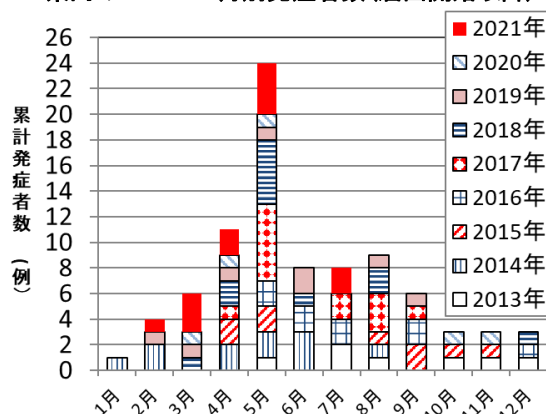
(全数報告の感染症) の報告が宮崎市保健所管内からあった。患者は80歳代の女性で、ダニの刺し口は確認できなかった。県内での報告は、累計86例となった。

県内のSFTS 年齢別報告数(届出開始以降)

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	1	2	3	20	35	19	5

・**新型コロナウイルス感染症**(新型インフルエンザ等感染症)の報告が306例あり、2021年の累積報告数は2,937例となった。

県内のSFTS月別発症者数(届出開始以降)



全数報告の感染症 (32週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核1例。3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症2例。
4類感染症：重症熱性血小板減少症候群1例。5類感染症：後天性免疫不全症候群1例、梅毒2例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	50歳代	女	無症状病原体保有者	なし
3類	腸管出血性大腸菌感染症	宮崎市	0~4歳	女	—	水様性下痢、血便、O111(VT1VT2)
			0~4歳	女	—	腹痛、血便、発熱、O111(VT1VT2)
4類	重症熱性血小板減少症候群	宮崎市	80歳代	女	—	発熱、血小板減少、白血球減少
5類	後天性免疫不全症候群	宮崎市	20歳代	男	その他	脳炎、伝染性単核球症様症状
	梅毒	宮崎市	30歳代	男	無症状病原体保有者	なし
		都城	40歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	硬性下疳

新型コロナウイルス等感染症 (32週までに新たに届出のあったもの)

疾患名	居住地保健所	報告数	年齢群										症状
			10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代		
新型コロナウイルス感染症	宮崎市	146例	7	21	48	18	24	14	7	4	3	発熱、咳、全身倦怠感、頭痛、咽頭痛等	
	都城	33例	4	9	6	6	4	2	2				
	延岡	12例	1		5		3		3				
	日南	10例	1		1	1		3	4				
	小林	4例		1	1	1			1				
	高鍋	28例	2	7	4	4	6	3	2				
	高千穂	1例					1						
	日向	32例	2	3	9	8	4	6					
	中央	7例		1		1	1		3	1			
	県外	33例		6	17	4	3	3					

《前週との比較》

□ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は290人(定点当たり9.6)で、前週比78%と減少した。なお、前週に比べ増加した主な疾患は特になく、減少した主な疾患はRSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び手足口病であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

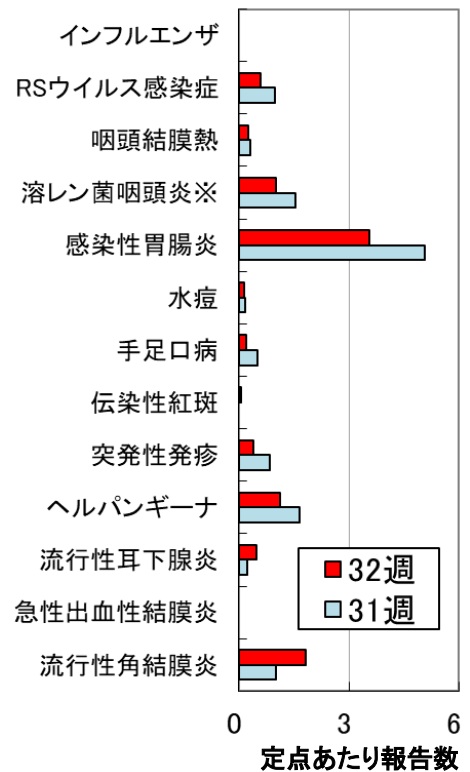
【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

報告数は36人(1.0)で、前週比64%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.6)の約0.6倍であった。延岡(7.3)、日南(1.0)保健所からの報告が多く、年齢群別は1~3歳が全体の約7割を占めた。

【感染性胃腸炎】

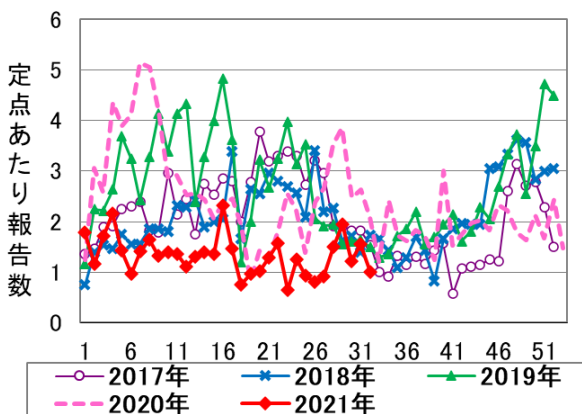
報告数は128人(3.6)で、前週比70%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(5.6)の約0.6倍であった。小林(6.3)、中央(6.0)、日向(5.0)保健所からの報告が多く、年齢群別は1~3歳が全体の約半数を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

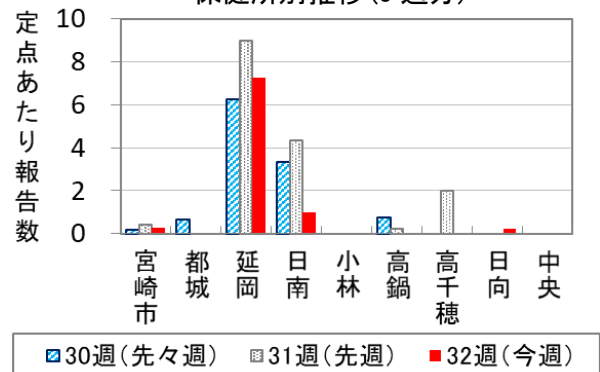


※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

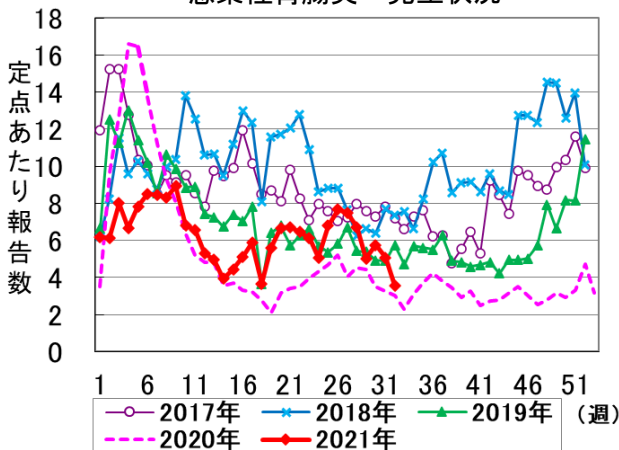
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況



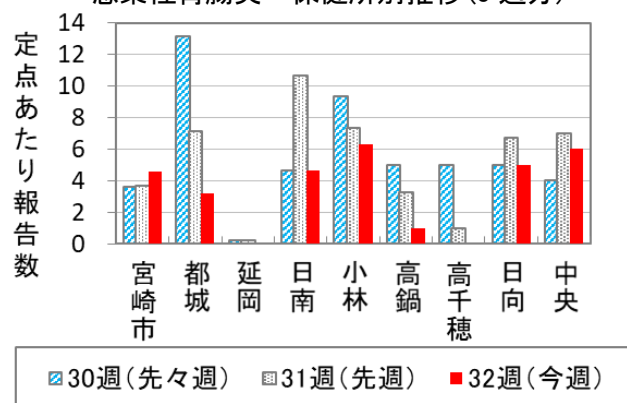
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 保健所別推移(3週分)



感染性胃腸炎 発生状況



感染性胃腸炎 保健所別推移(3週分)



★基幹定点からの報告★ 報告なし。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患	
宮崎市	なし	* 流行警報レベル開始基準値* ・伝染性紅斑(2)
都城	なし	
延岡	なし	* 流行注意報レベル基準値* ・水痘(1)
日南	なし	
小林	なし	
高鍋	なし	
高千穂	なし	
日向	なし	
中央	水痘(1.0)、伝染性紅斑(2.0)	

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 令和3年8月16日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EPEC(O157:H7)	10歳代	男	2021.7.13	発熱(37.6℃)、胃腸炎(水様性下痢、腹痛)	便	2021.7.26
Salmonella Corvallis (O8:z4,z23:-)	60歳代	男	2021.7.25	無症状	便	2021.7.29
EHEC(O111:HNM VT1,2)	0~4歳	女	2021.8.2	胃腸炎(水様性下痢、血便)	便	2021.8.6

0～4歳女児から腸管出血性大腸菌（EHEC O111:HNM VT1,2）が検出された。腸管出血性大腸菌による感染症は、一般に初夏から晩秋にかけて多発することから、今後の発生動向に注意する必要がある。なお、宮崎県では毎年、保育園等でEHECの集団感染が発生しており、食べ物を介した感染だけでなく、簡易用ミニプール水等を介した感染等にも注意する必要がある。保育施設においては、厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドライン」2018年3月改訂を参照されたい。

★ウイルス 報告なし。

🇯🇵 全国 2021 年第 31 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	212 例				
3類感染症	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症	116 例		
4類感染症	E型肝炎	7 例	A型肝炎	1 例	エキノコックス症	1 例
	回帰熱	1 例	重症熱性血小板減少症候群	1 例	つつが虫病	2 例
	日本紅斑熱	7 例	マラリア	1 例	レジオネラ症	26 例
5類感染症	アメーバ赤痢	5 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	26 例	急性脳炎	5 例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	5 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5 例	後天性免疫不全症候群	10 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 例	侵襲性肺炎球菌感染症	11 例	水痘（入院例）	1 例
	梅毒	78 例	播種性クリプトコックス症	2 例	破傷風	1 例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例	百日咳	6 例		

※新型コロナウイルス感染症の全国の報告数について、現在、発生届の報告を新システム(新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム(HER-SYS))へ移行中のため、移行が終了するまで掲載を控えさせていただきます。

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 96%とほぼ横ばいであった。なお、前週と比較して増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病及びヘルパンギーナで、減少した主な疾患はRSウイルス感染症であった。

RSウイルス感染症の報告数は 11,018 人(3.6)で前週比 90%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.87)の約 4.2 倍であった。徳島県(18.4)、新潟県(13.4)、高知県(12.4)からの報告が多く、年齢群別では6ヵ月から3歳が全体の約8割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は 7,164 人(2.4)で前週比 98%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値*(3.1)の約 0.8 倍であった。大分県(8.1)、愛媛県(6.8)、福岡県(5.9)からの報告が多く、年齢群別では1歳から3歳が全体の約半数を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

月報告対象疾患の発生動向 <2021年7月>

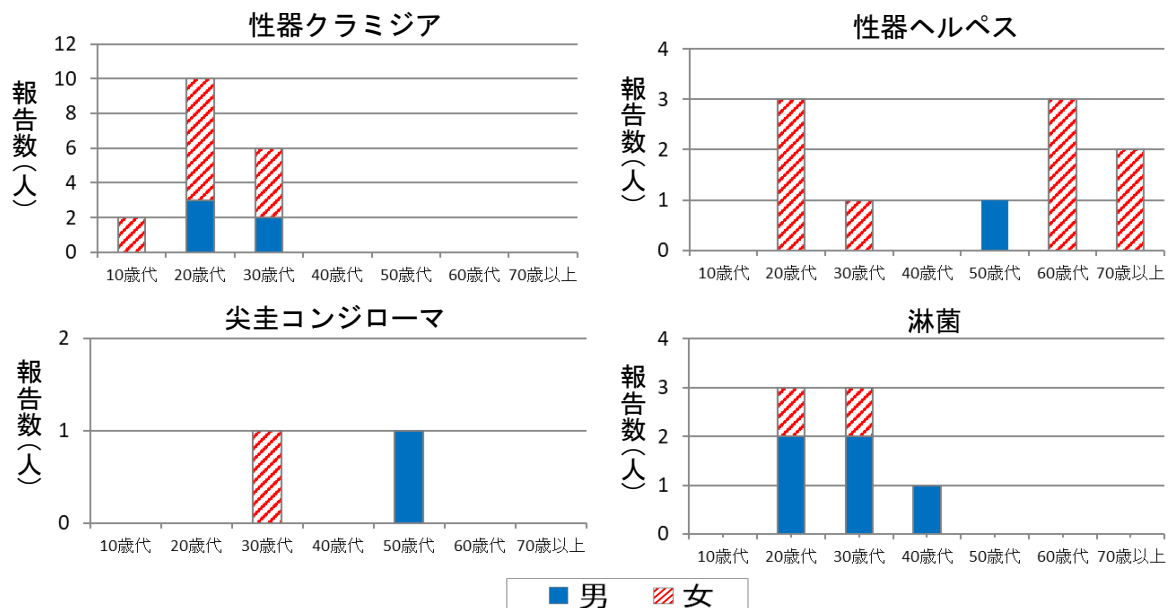
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は37人(2.9)で、前月比65%と減少した。また、昨年7月(3.9)の74%であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数18人(1.4)で、前月の約半数、昨年7月の0.7倍であった。
20歳代が全体の約6割を占めた。(男性5人・女性13人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数10人(0.77)で、前月の約0.9倍、昨年7月の約0.7倍であった。(男性1人、女性9人)
- 尖圭コンジローマ：報告数2人(0.15)で、前月と同率、昨年7月の2.0倍であった。
(男性1人、女性1人)
- 淋菌感染症：報告数7人(0.54)で前月の約1.2倍、昨年7月の約0.8倍であった。
(男性5人、女性2人)



【全国】

定点医療機関からの報告総数は4,931人(5.0)で、前月比104%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,706人(2.8)で前月比103%、性器ヘルペスウイルス感染症759人(0.77)で前月比98%、尖圭コンジローマ466人(0.48)で前月比100%、淋菌感染症1000人(1.0)で前月比113%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は24人(3.4)で、前月比96%とほぼ横ばいであった。また、昨年7月(3.1)の109%であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数23人(3.3)で、前月及び昨年7月とほぼ同率であった。70歳以上が全体の約7割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数1人(0.14)で、前月と同率であった。
(昨年7月報告なし)
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】

定点医療機関からの報告総数は1,276(2.7)で、前月比99%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,185人(2.5)で前月比101%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症78人(0.16)で前月比76%、薬剤耐性緑膿菌感染症13人(0.03)で前月比100%であった。

疾病名		第31週	第32週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	35	21	6	3	1		9	1		1	
	定点当り	0.97	0.58	0.60	0.50	0.25	0.00	3.00	0.25	0.00	0.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	11	9	3	2	3	1					
	定点当り	0.31	0.25	0.30	0.33	0.75	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	56	36	3		29	3				1	
	定点当り	1.56	1.00	0.30	0.00	7.25	1.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
感染性胃腸炎	報告数	183	128	46	19		14	19	4		20	6
	定点当り	5.08	3.56	4.60	3.17	0.00	4.67	6.33	1.00	0.00	5.00	6.00
水痘	報告数	6	5	1				2			1	1
	定点当り	0.17	0.14	0.10	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.00	0.25	1.00
手足口病	報告数	18	7	1		4	1		1			
	定点当り	0.50	0.19	0.10	0.00	1.00	0.33	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数		2									2
	定点当り	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.00
突発性発しん	報告数	30	14	4	4	4		1			1	
	定点当り	0.83	0.39	0.40	0.67	1.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.25	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	60	40	3	4	23	4	1	1		4	
	定点当り	1.67	1.11	0.30	0.67	5.75	1.33	0.33	0.25	0.00	1.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	8	17	1	2	8			4		1	1
	定点当り	0.22	0.47	0.10	0.33	2.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.25	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	6	11	7	4							
	定点当り	1.00	1.83	2.33	2.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2021年第1週～32週)

2類感染症	結核	78例(1)		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	18例(2)		
4類感染症	E型肝炎	4例	重症熱性血小板減少症候群	12例(1)
	日本紅斑熱	8例	レジオネラ症	5例
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	2例
	クリプトスポリジウム症	1例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例
	後天性免疫不全症候群	5例(1)	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4例
	水痘(入院例)	3例	梅毒	56例(2)
	破傷風	3例	百日咳	1例
新型インフルエンザ 等感染症	新型コロナウイルス感染症	2,937例(306)		

()内は今週届出分、再掲